

意見やアイデアも持っているのだから、自分たちの話を聞いてほしかった」というものでした。

自分の力を地域のために役立てたいと思う子どもたちが地域とつながっていけるよう、白石まち協が自治会の困りごとなどの情報を収集し、子どもたちと地域をつなぐ活動ができたら良いと思っています。

子どもたちが学校で身に付けてことを実践して、目の前の人々の笑顔を見て、自分たちは誰かの役に立ったと感じられる場を作ることが必要ではないでしょうか。



縮小しても 豊かな地域を創るために

五嶋 国が進めている学習指

導要領の改定や国際的な教育機関である経済協力開発機構（OECD）も、子どもたちの参画意識や当事者意識を育むことを真ん中に据えています。

将来、白石地区の子どもたちが担うことになるのは、どのようにまちを縮小させていくかということです。私たち世代は人口や移住者を増やすことを考えましたが、今後人口が減少していくことは避けでは通れないことだと思います。縮小しても、いかに豊かな地域を自分たちで創つていかかという話し合いを、住民ベースですることになると思います。

そのときに、メインで意見を出すことになるのが、いまの子どもたちの世代です。子どもたちがきちんと問題に関わり対話して、より良い解決を目指していくよう、白石まち協が対話のトレーニングの場としての機能を担つていきたいと思います。

白石地区の皆さんに お伝えしたいこと

紹野 まちづくり協議会への認識が自治会の中でもまだ低いように思いますので、白石地区の皆さんに、白石まち協とは何をする組織なのかということに関する心を持っていただきたいと思います。

そして、白石まち協に対する期待の声やアイデアを多く寄せただけでいいような関係性や機会も作つていただきたいと考えています。

佐藤 時間をかけて白石まち協への理解や関心を広めていく必要があると思っています。そのためにも、白石地区の皆さんに地域や市の将来のことを、自分がごととして、私たちと一緒に考えてもらえるように取り組んでいきたいですし、理解されるような組織作りを目指していきたく思っています。

五嶋 20年後くらいに、あのとき立ち上げていなかつたら、あのとき話し合つていなかつたら、いまどうなつっていたのだろうというときが来ると思います。この組織は20年後、30年後の白石地区を考えて立ち上げているので、長い目で見ていただけ、少しづつ、こういうことをやつしていく団体だというイメージを持つてもらえたなら良いと思

加川 白石まち協は、特別な人の組織ではありません。白

石に暮らす、白石が好きな、すべての皆さんの声を地域づくりに生かすための場です。

「こんなことできたらいいな」そんな小さな声こそ、地域を変える大きな力になります。私たち

役員だけでは、理想のまちづくりは実現できません。ぜひ皆さ

んのアイデア、参加、応援をい

ただき、「みんなでつくる白石」を一緒に実践していきたいと思

私の考える白石まち協は、これからみんなで白石地区を支えて、つながりを作っていくたい、そういう場所になつていくと良いと思います。

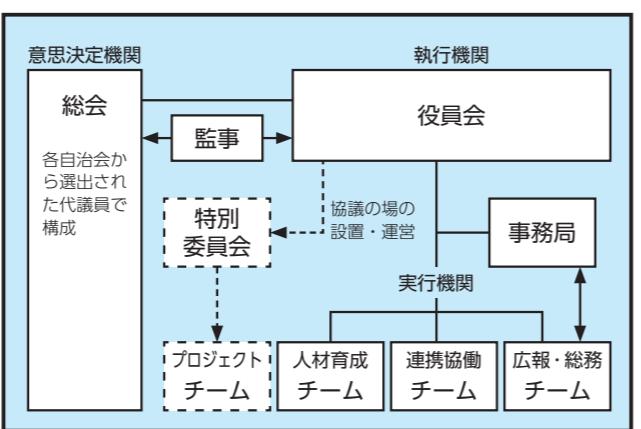
お互いを知らないと何も始まらないので、まずはたくさんの方々とお話をしたいです。事務

大橋 白石まち協とはどのようなところかを聞きに来てくださいました。その方は「まちづくり協議会とは、いろいろな地域の困りごとを吸収して、それを自分たちで解決できる力を身に付けた人が、自分の自治会に戻つて活動するようになれば、自治会の役に立つようになり、そう考えると、まちづくり協議会は人材育成の場ですね」ということを言わされました。

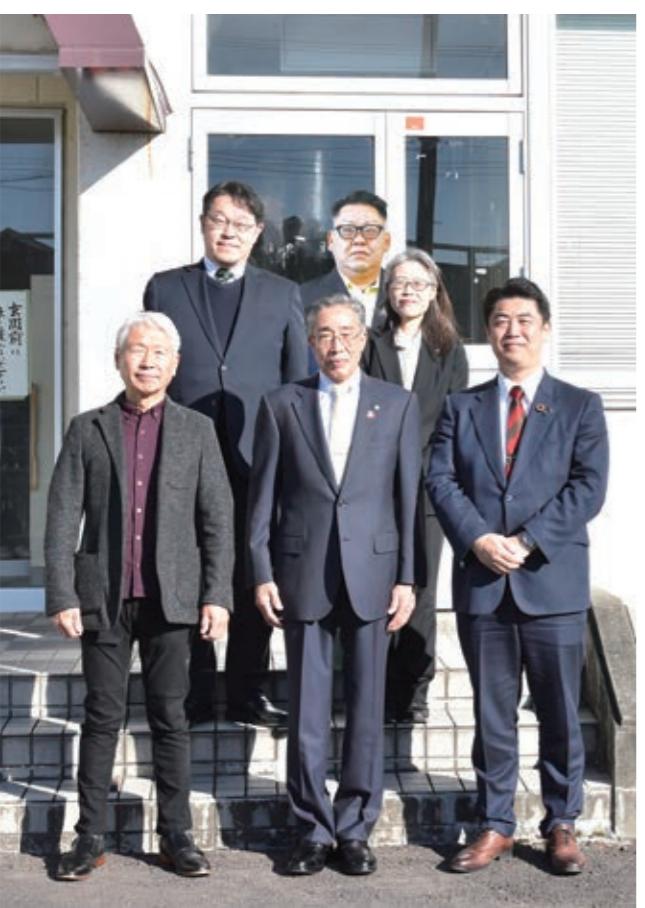
実は私たちにはそういう組織になりましたと伝えたら、それは素晴らしいことだし、自分もそこに関わりたいと話してくれました。

私の考える白石まち協は、これまでみんなで白石地区を支えて、つながりを作つていきたい、そういう場所になつていくと良いと思います。

お互いを知らないと何も始まらないので、まずはたくさんの方々とお話をしたいです。事務



▲「白石まち協」組織図



▲白石地区への思いを胸に事務所前での記念撮影